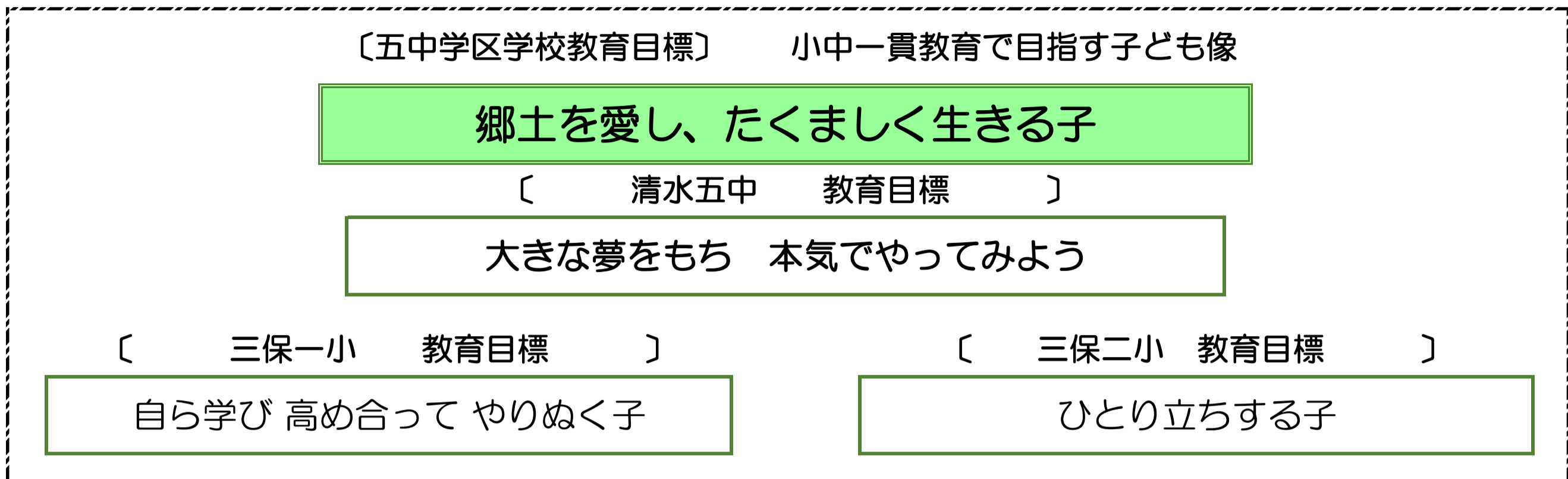


清水第五中学区 小中一貫教育構想図(案) 令和4年度ver.

【視点1】



〔9年間の連続性、系統性を強化した教育課程の編成〕 【視点2】

(1) 郷土に学ぶ教育活動の展開

＜軸となる取組＞
郷土愛・主体性・協働性を育む三保・折戸学の推進
(歴史・文化・防災)

- ・能学習(羽衣まつり)、屋号物語、折戸なす栽培等
- ・地域防災訓練への参加
- ・三保の松原清掃への参加

(2) たくましく生きる子どもの育成

- ①夢や目標をもち、本気で取り組む力の育成
 - ・学習や行事等への目標設定と振り返り
- ②家庭・学校・地域等、進んで挨拶する力の育成
 - ・挨拶運動の推進

〔協働・交流のある教育〕 【視点3】

(1) ふれあい高め合う異年齢交流の推進
小学生の中学校生活、行事等への参加

- ・中学校授業体験
- ・部活動体験
- ・体育祭の見学
- ・小中合同の挨拶運動

(2) 一貫意識を高める研修会の推進

- ・小中合同全体研修会の実施
- ・ミドルリーダー会の実施
- ・学校公開、校内研修会への参加
- ・乗り入れ授業

自己肯定感の向上に基づき、主体性・協働性の伸張

〔地域との連携〕 【視点4】

(1) 地域とともに生きる行事・活動への積極的参加

- ・羽衣まつり
- ・折戸まつり
- ・三保松原清掃
- ・地域防災訓練
- ・「サンセットコンサート」での吹奏楽部演奏
- ・青少年育成大会
- ・敬老会
- ・児童館、交流館、みほしるべ、海洋科学博物館等、各施設との連携

(2) 小中一貫コミュニティ・スクール

- ・学校運営協議会を設置し、「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- ・各校に学校支援部会を設置し、具体的な活動に取り組む。

〔小中の一貫した支援・指導の実践〕

(1) 学習 主体的に学ぶ力の育成

- ・「学習の五ヶ条」の徹底
- ・「家庭学習の手引き」の活用
- ・三保、折戸学の推進
- ・学習環境作り
- ・「教科でつきたい力」の共通理解

(2) 生活 かかわりあう力の育成

- ・自己肯定感を高める
- ・コミュニケーション能力の育成
- ・課題対応能力の育成

★地域の実態

・学校を愛し協力をいとわない地域住民・保護者が多く、学校支援活動やボランティア活動等により、豊かな教育活動が展開されている。
 ・多くの学習「材・財」が存在している地域である。(三保松原、折戸なす等の歴史文化・海洋科学博物館、大学、児童館等の教育施設等)
 ・少子高齢化・児童生徒数の減少・防災等の課題もあり、「地域に学び、地域を愛し、地域に貢献する」教育の推進は必須である。
 ・一人ひとりのニーズに対応した教育や、互いを尊重する意識の向上等、多様性に関わる課題解決について推進する必要がある。

★子どもの実態 私たちは、子どもの良さを伸ばし、課題を改善します。

<p>◎よさ⇒自主的に行動できる。素直で真面目。</p> <p>＜学習面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やるべきことに自主的にかんばることができる。 ・みんなでがんばろうとする力ある。(協調性がある) <p>＜生活面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んであいさつができる。 ・自己肯定感が高まってきている。 ・規範意識が高まっている。 ・温かい人間関係を築くことができる。 ・掃除に真面目に取り組む。 	<p>○課題⇒主体性の伸張 コミュニケーション力の向上</p> <p>＜学習面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぶ力 ・継続的に学ぶ力 ・論理的にまとめたり表現したりする力 <p>＜生活面＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な集団の中で活躍できる力 ・自分で解決する力 <p>＜地域で＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつする態度 ・地域行事への積極的な参加意識
---	---

※感染症対策を優先に考え、予定を変更することもあります。